

平成 30 年度口頭発表等一覧

[企画部]

- ◇地球惑星科学連合 2018 年大会 平成 30 年 5 月 20 日～24 日 幕張メッセ (千葉県千葉市)
 - ・「地理院地図」で見えてくる災害と地形のつながり：小白井 亮一
- ◇日本地図学会平成 30 年度定期大会 2018 年 8 月 26 日～2018 年 8 月 29 日 富山大学 (富山県富山市)
 - ・明治初期における我が国の NGIA の成立過程：佐藤 潤

[測地部]

- ◇FIG Congress 2018 (2018 年 FIG 会合) 平成 30 年 5 月 6 日～11 日 Istanbul Congress Center (トルコ・イスタンブール)
 - ・Geodetic Reference Frame of Japan as basic infrastructure enabling us precise GNSS positioning (GNSS 精密測位の基盤としての日本の測地基準座標系)：宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)・矢萩智裕・川元智司 (測地観測センター)・佐藤雄大 (国土交通省)
 - ・Improvement of GNSS positioning accuracy under urban environment by multipath mitigation methods (マルチパス低減手法による都市部における GNSS 測位精度の改善)：大中泰彦 (九州地方測量部)・宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)・多田直洋 (測地観測センター)・古屋智秋 (国土交通省)・宮川康平・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)
- ◇地球惑星科学連合 2018 年大会 平成 30 年 5 月 20 日～24 日 幕張メッセ (千葉県千葉市)
 - ・日本での航空重力測量実現に向けた国土地理院の取組み：平岡喜文・矢萩智裕・松尾功二 (地理地殻活動研究センター)・大森秀一
 - ・国土地理院のジオイド・モデルの変遷：矢萩智裕・平岡喜文・大森秀一・宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)・黒石裕樹 (測地観測センター)
 - ・石岡測地観測局における重力値の水平勾配の評価：兒玉篤郎・大森秀一・平岡喜文・矢萩智裕・加藤知瑛 (企画部)・吉田賢司 (企画部)
 - ・全球統合測地観測システム (GGOS) ワーキンググループの 5 年間：宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)・大坪俊道 (一橋大学)
 - ・石岡 VLBI 観測施設による連続広帯域観測：石垣真史・若杉貴浩・栗原忍・梅井迪子・藤原みどり・石本正芳 (国土交通大学校)・宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)
 - ・だいち 2 号を活用した日本国内の地表変動の継続的な監視：山下達也・上芝晴香・攪上泰亮 (測地観測センター)・林京之介・本田昌樹・仲井博之 (国土交通大学校)・宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)
- ◇10th IVS General Meeting (第10回国際VLBI事業総会) 平成30年6月3日～9日 The Radisson Blu Polar Hotel (ノルウェー・スヴァールバル諸島ロングイェールビーン)
 - ・Current Status of VGOS Observations with Ishioka VLBI Station (石岡VLBI観測施設におけるVGOS観測の現状)：若杉貴浩・栗原忍・石垣真史・梅井迪子・藤原みどり・石本正芳 (国土交通大学校)・宮原伐折羅 (地理地殻活動研究センター)
- ◇第 47 回国土地理院報告会 平成 30 年 6 月 6 日 日経ホール (東京都千代田区)
 - ・明治以来の標高の仕組みを大転換—いつでも・どこでも・誰でも信頼できる標高が使える社会へ—：矢萩智裕

- ・GNSS 観測から高時間分解能で地殻変動を捉えるー精密単独測位法による電子基準点キネマティック GNSS 解析システムー：宗包浩志
- ◇日本測地学会第 130 回講演会 平成 30 年 10 月 16 日～18 日 高知県立県民文化ホール（高知県高知市）
 - ・高精度測位社会の夜明けに向けた測地基準座標系のあり方に関する検討：矢萩智裕・宮原伐折羅（地理地殻活動研究センター）・飛田幹男・小門研亮（地理地殻活動研究センター）・岩田昭雄・川元智司（測地観測センター）・大滝修
 - ・航空重力測量実施に向けた地上重力検定線の設置：兒玉篤郎・富山顕・吉樂絵里香・矢萩智裕・平岡喜文・河和宏・大森秀一
 - ・航空重力測量実施に向けた飛行計画の設計：大森秀一・矢萩智裕・平岡喜文・吉樂絵里香
 - ・石岡 VLBI 観測施設における VLBI-GNSS コロケーション測定の手法の検討：上芝晴香・石垣真史・栗原忍・若杉貴浩・梅井迪子・宗包浩志
 - ・VLBI による GGOS への貢献ーVGOS の現状と展望ー：若杉貴浩・栗原忍・上芝晴香・梅井迪子・石垣真史・宗包浩志
 - ・干渉 SAR の全国定常解析における電離層位相の除去に向けた取り組み：林京之介・山下達也・本田昌樹・桑原將旗・松本紗歩・酒井和紀・宗包浩志・森下遊（地理地殻活動研究センター）
 - ・SAR 干渉解析を用いた小千谷市の季節変動の検証：松本紗歩・桑原將旗・山下達也・本田昌樹・林京之介・酒井和紀・宗包浩志
- ◇平成 30 年度国土交通省国土技術研究会 平成 30 年 11 月 1 日～2 日 国土交通省中央合同庁舎 2 号館・3 号館（東京都千代田区）
 - ・SAR 干渉解析を用いた小千谷市における地盤の季節変動の面的把握：桑原將旗
- ◇21st International Workshop on Laser Ranging（第 21 回国際レーザ測距ワークショップ） 平成 30 年 11 月 5 日～8 日 オーストラリア国立大学ジョン・カートン医療研究所（オーストラリア・キャンベラ）
 - ・Recent Progress of VGOS and its role on GGOS（VGOS の現状とその GGOS への貢献）：若杉貴浩
- ◇第 7 回国際 VLBI 技術ワークショップ 平成 30 年 11 月 12 日～15 日 アオナンヴィラリゾート（タイ・クラビ）
 - ・Analysis Report of AOV Observations（AOV 観測の解析結果について）：石垣真史・若杉貴浩・梅井迪子・栗原忍・上芝晴香・宗包浩志
- ◇2018 年度 VLBI 懇談会シンポジウム 平成 30 年 12 月 1 日～2 日 熊本大学（黒髪南地区キャンパス）
 - ・VGOS の現状と展望：梅井迪子・若杉貴浩・栗原忍・吉川忠男・上芝晴香・松本紗歩
 - ・国土地理院機関報告：松本紗歩・上芝晴香・栗原忍・吉川忠男・若杉貴浩・梅井迪子
- ◇the AGU 2018 Fall Meeting（アメリカ地球物理学連合 2018 秋季会合） 平成 30 年 12 月 10 日～14 日 Walter E. Washington Convention Center（米国・ワシントン D.C.）
 - ・Launch of an airborne survey project towards the new geoid-based vertical datum in Japan（ジオイド基準の新たな日本の標高体系構築に向けた航空重力測量プロジェクトの始動）：矢萩智裕・平岡喜文・大森秀一・兒玉篤郎・富山顕・吉樂絵里香・河和宏・松尾功二（地理地殻活動研究センター）
- ◇24th Meeting of the European VLBI Group for Geodesy and Astrometry（第 24 回欧州 VLBI 事業会議） 平成 31 年 3 月 17 日～19 日 ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学（スペイン・ラス・パルマス）
 - ・VLBI-GNSS collocation survey at the Ishioka VLBI station（石岡 VLBI 観測局におけるコロケーション測定）：宗包浩志
 - ・Activity Report on the Asia-Oceania VLBI Group (AOV)（アジア・オセアニア VLBI グループ (AOV) 活動報告）：若杉貴浩

[地理空間情報部]

- ◇第47回国土地理院報告会 平成30年6月6日 日経ホール(東京都千代田区)
 - ・「地図の利用手続のあり方検討部会」の検討状況について:福島忍
- ◇第9回地理院地図パートナーネットワーク会議 平成30年7月18日 北海道立道民活動センター(北海道札幌市)
 - ・地理院地図に関する話題:佐藤壮紀
- ◇平成30年度第2回気象ビジネス推進コンソーシアムセミナー 平成30年9月7日 気象庁(東京都千代田区)
 - ・気象ビジネスに地図を活用しませんか?~国土地理院のウェブ地図「地理院地図」のご紹介~:小島脩平
- ◇関西G空間フォーラム2018 平成30年10月3日 大阪工業大学梅田キャンパス(大阪府大阪市)
 - ・地理空間情報活用推進における測量と地図の役割:下山泰志
- ◇FOSS4G 2018 Okayama 平成30年11月4日 岡山大学50周年記念館(岡山県岡山市)
 - ・地理院地図の新機能と災害情報の提供:小島脩平
- ◇FOSS4G 2018 Tokyo 平成30年11月10日 東京大学駒場リサーチキャンパス(東京都目黒区)
 - ・地理院地図の新機能と災害情報の提供:佐藤壮紀
- ◇第10回地理院地図パートナーネットワーク会議 平成30年11月15日 日本科学未来館(東京都江東区)
 - ・地理院地図に関する話題:佐藤壮紀
- ◇第10回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会 平成30年11月28日 札幌第1合同庁舎(北海道札幌市)
 - ・地理院地図パートナーネットワーク会議~地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指して~:小島脩平
- ◇地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議 平成31年2月5日 福井市地域交流プラザ(福井県福井市)
 - ・県・市町村における「地理院地図」の活用方法について:佐藤壮紀、茂木宏仁
- ◇日本記者クラブ土曜記者ゼミ 平成31年2月9日 日本記者クラブ(東京都千代田区)
 - ・防災に役立つ地理院地図の機能やコンテンツの紹介:佐藤 壮紀

[基本図情報部]

- ◇日本写真測量学会平成30年度年次学術講演会 平成30年5月24~25日 東京大学生産技術研究所(東京都目黒区)
 - ・UAV搭載型レーザスキャナの精度検証:澤可那子・阪上雅之・野口真弓・中村孝之(近畿地方測量部)
- ◇第47回国土地理院報告会 平成30年6月6日 日経ホール(東京都千代田区)
 - ・ビッグデータを活用した登山道修正の取組:大塚孝治
- ◇第2回日韓空間情報フォーラム in なにわ 平成30年10月25日 株式会社アスコ大東(大阪府大阪市中央区)
 - ・国土地理院の屋内3次元技術開発動向と自然災害対応について:笹川啓
- ◇平成30年度国土交通省国土技術研究会 平成30年11月1~2日 国土交通省中央合同庁舎2号館・3号館(東京都千代田区)
 - ・UAV搭載型レーザスキャナを用いた土砂崩落の把握:澤可那子

- ◇日本写真測量学会平成30年度秋季学術講演会 平成30年11月8～9日 アオーレ長岡（新潟県長岡市）
- ・衛星画像と空中写真を用いた二時期の自動変化抽出の試み：笹川啓・菅井秀翔・野口真弓
 - ・ヘリコプター動画から作成したDSM及びオルソ画像の精度について：阪上雅之・内山庄一郎（防災科学技術研究所）・野口真弓・笹川啓・澤可那子
 - ・固定翼型UAVの精度検証：澤可那子・瀧繁幸・野口真弓・笹川啓
 - ・航空機SARで観測した新燃岳の地形変化：菅井秀翔・野口真弓・笹川啓
- [応用地理部]

- ◇日本地球惑星科学連合2018年大会 平成30年5月20～24日 幕張メッセ（千葉県千葉市）
- ・主題図を教科横断的な学習に活用しよう：栗栖悠貴・稲澤容代

- ◇第47回国土地理院報告会 平成30年6月6日 日経ホール（東京都千代田区）
- ・地形を知って自然災害に備えるー地形に刻まれる災害の爪痕ー：沼田佳典

- ◇日本第四紀学会2018年大会 平成30年8月24～28日 首都大学東京南大沢キャンパス（東京都八王子市）
- ・平成29年7月22日からの梅雨前線に伴う大雨による雄物川の浸水範囲ー治水地形分類図との比較ー：研川英征・古立求（国土地図）・関口辰夫（元国土地理院）・野口高弘・根本正美
 - ・平成30年7月豪雨における国土地理院応用地理部の災害対応：国土地理院応用地理部（研川英征・吉田一希・山中崇希・森下玲、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）に関する調査・研究報告緊急ポスター発表）

- ◇日本地理学会2018年秋季学術大会 平成30年9月22～24日 和歌山大学（和歌山県和歌山市）
- ・地形に刻まれた災害リスクを学ぶコンテンツの開発：栗栖悠貴
 - ・全国109水系の洪水浸水シミュレーションのWeb公開に向けた取組について：上芝卓也・藤井夢佳・吉松直貴・高桑紀之・山崎航・諏訪部順
 - ・表層堆積物と傾斜度からみた河成複式地形の種類：吉田一希
 - ・平成29年7月22日からの梅雨前線に伴う大雨による雄物川の浸水範囲ー治水地形分類図との比較ー：研川英征・古立求（国土地図）・関口辰夫（元国土地理院）・野口高弘・根本正美

- ◇第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018） 平成30年10月15～19日 つくば国際会議場（茨城県つくば市）
- ・霞ヶ浦の環境に関する取り組みへの各種地理空間情報の整備・提供：根本正美・沼田佳典・稲澤保行・四野宮良周・林諒祐（東北地方測量部）
 - ・湖沼データの整備、提供及び活用：沼田佳典・根本正美・稲澤保行・四野宮良周・林諒祐（東北地方測量部）

[測地観測センター]

- ◇日本地球惑星科学連合2018年大会 平成30年5月20～24日 幕張メッセ（千葉県千葉市）
- ・Technical development for expanding availability of GNSS precise positioning in urban environment（高精度衛星測位の適用範囲拡大のための技術開発 -3次元建物情報を活用したマルチパス誤差軽減手法の改良-）：大中泰彦（九州地方測量部）・多田直洋・酒井和紀（測地部）・古屋智秋（内閣府）・宮川康平（測地部）・畑中雄樹（地理地殻活動研究センター）
 - ・Improvement of Real-time GEONET Analysis System for Rapid Deformation Monitoring (REGARD)（電子基準点リアルタイム解析システム（REGARD）の改良）：阿部聡・高松直史（文部科学省）・川元智司・宮川康平（測地部）・太田雄策（東北大学大学院理学研究科）

- Development of New GEONET Analysis Strategy (新たな GEONET 解析ストラテジの開発) : 阿部聡・高松直史 (文部科学省)・石川典彦 (測地部)・木村勲・川元智司・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)
- Improvements of the GEONET real-time analysis system (REGARD) for more reliable operation (安定運用のための電子基準点リアルタイム解析システム (REGARD) の改良) : 川元智司・高松直史 (文部科学省)・阿部聡・宮川康平 (測地部)・太田雄策 (東北大学大学院理学研究科)
- 過去の稠密重力データの日本重力基準網 2016 への整合手法の高度化 : 宮崎隆幸
- ◇第 47 回国土地理院報告会 平成 30 年 6 月 6 日 日経ホール (東京都千代田区)
- 準天頂衛星システムが実現する高精度測位社会を支える電子基準点 : 黒石裕樹
- ◇第 4 回測量・地理空間情報 イノベーション大会 平成 30 年 6 月 12~13 日 東京大学伊藤国際学術研究センター (東京都文京区)
- 屋外 3 次元空間における高精度衛星測位の適用範囲拡大のための技術開発 -3 次元地図を活用したマルチパス低減手法の改良- : 多田直洋・大中泰彦 (九州地方測量部)・酒井和紀 (測地部)・古屋智秋 (内閣府)・宮川康平 (測地部)・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)
- ◇10th ACES (APEC Cooperation for Earthquake Science) International Workshop (第 10 回 APEC 地震科学国際ワークショップ) 平成 30 年 9 月 25~28 日 ホテル&リゾート南淡路 (兵庫県南あわじ市)
- Real-time coseismic fault model estimation based on RTK-GNSS analysis using GEONET (GEONET を用いた RTK-GNSS 解析によるリアルタイム断層推定) : 川元智司・阿部聡・高松直史 (文部科学省)・太田雄策 (東北大学大学院理学研究科)・等々力賢 (富士通)・西村卓也 (京都大学防災研究所) ◇日本地震学会 2018 年度秋季大会 平成 30 年 10 月 9~11 日 ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)
- GEONET 新解析戦略 (F4) の開発 : 川元智司・阿部聡・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)・高松直史 (文部科学省)
- ◇日本測地学会第 130 回講演会 平成 30 年 10 月 16~18 日 高知県立県民文化ホール グリーンホール (高知県高知市)
- 高精度衛星測位の適用範囲の拡大のための技術開発 -マルチパス軽減手法の改良と手法の精度評価 : 多田直洋・大中泰彦 (九州地方測量部)・酒井和紀 (測地部)・古屋智秋 (内閣府)・檜山洋平 (国土交通省)・宮川康平 (測地部)・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)
- REGARD へのリアルタイムキネマティック PPP 導入の試み : 阿部聡・川元智司・宗包浩志 (測地部)・大野圭太郎 (東北大学大学院理学研究科)
- GEONET 新解析戦略 (F4) の開発 : 川元智司・阿部聡・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)・高松直史 (文部科学省)
- 昭和 IGS 観測局の連続運用 20 年 : 福崎順洋・宮崎隆幸・濱崎英夫
- 新たな RINEX 編集・品質管理ソフト RINGO の開発 : 川元智司・阿部聡
- みんなで作る稠密な電子基準点網の可能性 : 辻宏道・山口和典・田中和之・根本悟・黒石裕樹・川元智司・野神憩・濱崎英夫・宮崎隆幸・今給黎哲郎 (ジェノバ)
- 光格子時計の測地応用の可能性 : 田中愛幸 (東京大学)・黒石裕樹・香取秀俊 (東京大学)
- ◇10th Multi-GNSS Asia (MGA) Conference (第 10 回マルチ GNSS アジア会議) 平成 30 年 10 月 23 日~10 月 25 日 Royal Melbourne Institute of Technology University (オーストラリア・メルボルン)
- Development of Multipath Mitigation Methods to Improve GNSS Positioning Accuracy Under Urban Environments (2) (都市部における測位精度向上のためのマルチパス低減手法の開発 (2)) : 福崎順洋・大中泰彦 (九州地方測量部)・多田直洋・酒井和紀 (測地部)・古屋智秋 (内閣府)・檜山洋平 (国土交通省)・宮川康

平 (測地部)・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)

- Corrections of Quarter Cycle Shift and Inter-System Bias between Multi-GNSS Signals for Efficient Surveying and Precise Positioning (効率的な測量と高精度測位のためのマルチ GNSS 信号間の 1/4 サイクルシフトとシステム間バイアスの補正) : 福崎順洋・辻宏道 (基本図情報部)・川元智司
- ◇12th Joint Meeting of UJNR Panel on Earthquake Research (第 12 回天然資源の開発利用に関する日米会議 地震調査専門部会合同部会) 平成 30 年 10 月 24~26 日 熊本県熊本市国際交流会館 (熊本県熊本市)
 - Real-time coseismic fault model estimation system “REGARD” based on RTK-GNSS analysis in Japan (RTK-GNSS 解析を用いたリアルタイム断層推定システム (REGARD)) : 阿部聡・川元智司・大橋和幸・太田雄策 (東北大学大学院理学研究科)・等々力賢 (富士通)・西村卓也 (京都大学防災研究所)
- ◇IGS WS2018 (国際 GNSS 事業ワークショップ 2018) 平成 30 年 10 月 28 日~11 月 3 日 中国湖北省武漢市東湖国際会議場 (中国武漢市)
 - Real-time coseismic fault model estimation based on RTK-GNSS analysis in Japan (RTK-GNSS 解析を用いたリアルタイム断層推定システム (REGARD)) : 川元智司・阿部聡・太田雄策 (東北大学大学院理学研究科)・等々力賢 (富士通)・西村卓也 (京都大学防災研究所)
- ◇平成 30 年度国土技術研究会 平成 30 年 11 月 1~2 日 国土交通省中央合同庁舎 2 号館・3 号館 (東京都千代田区)
 - 屋外 3 次元空間における高精度衛星測位の適用範囲の拡大のための技術開発 : 多田直洋・大中泰彦 (九州地方測量部)・古屋智秋 (内閣府)・酒井和紀 (測地部)・鎌苅裕紀 (北陸地方測量部)・山尾裕美 (測地部)・宮川康平 (測地部)・畑中雄樹 (地理地殻活動研究センター)
- ◇SAT テクノロジー・ショーケース 平成 31 年 1 月 29 日 つくば国際会議場 (茨城県つくば市)
 - 人工衛星を用いた巨大地震メカニズムのリアルタイム推定 : 攪上泰亮

[地理地殻活動研究センター]

- ◇公益社団法人日本地すべり学会東北支部平成 30 年度東北支部総会・シンポジウム 平成 30 年 4 月 16 日 仙台市戦災復興記念館 (宮城県仙台市)
 - 国土地理院の地形計測—これまでとこれから— : 宇根寛
- ◇FIG Congress 2018 (国際測量者連盟会合 2018) 平成 30 年 5 月 6~11 日 Istanbul Congress Center (トルコ・イスタンブール)
 - Geodetic Reference Frame of Japan as basic infrastructure enabling us precise GNSS positioning (精密 GNSS 測位を実現する基盤インフラとしての日本の測地基準座標系) : 宮原伐折羅・矢萩智裕 (測地部)・川元智司 (測地観測センター)・佐藤雄大 (文部科学省)・松尾功二
- ◇日本地球惑星科学連合 2018 年大会 平成 30 年 5 月 20~24 日 幕張メッセ (千葉市美浜区)
 - A Catalog of ALOS-2 SAR Interferograms Associated with Global Large Earthquakes in 2014-2016 (世界の大地震 (2014-2016 年) の ALOS-2 SAR 干渉画像カタログ) : 森下遊
 - Examination for estimation of snow depth in mountainous areas using aerial photos and SfM-MVS technique (SfM-MVS 技術と空中写真を用いた山間地における積雪深推定に向けた検討) : 中埜貴元・大野裕幸
 - Comparison of GPR survey results and trench survey results at the Matoishibokujo I Fault (的石牧場 I 断層における GPR 探査結果とトレンチ調査結果との対比) : 中埜貴元・宇根寛・佐藤浩 (日本大学)
 - Research on the development of rapid and accurate GNSS routine analysis system (1) (迅速・高精度な GNSS 定常解析システムの構築に関する研究 (1)) : 中川弘之

- Development of a new GNSS integrated analysis system (次世代 GNSS 統合解析システムの試作) : 宗包浩志
- Spatio-temporal evolution of interplate coupling off the east coast of Kii Peninsula (GNSS データに基づく紀伊半島東岸のプレート間固着・滑りの時空間変化) : 小沢慎三郎
- Digital terrain analyses of the Nōbi Plain using the fundamental geospatial data (基盤地図情報を用いた濃尾平野の数値地形解析) : 岩橋純子・中埜貴元
- Coulomb stress change on the fault in Japan assumed from focal mechanism estimated from GNSS surface displacements of GEONET (GEONET による定常的な GNSS 観測から推定した全国の地震断層のクーロン応力変化) : 山中雅之 (国土交通大学校)・藤原智・矢来博司・西村卓也 (京都大学)
- Postseismic deformation unveiled by InSAR observation (SAR 観測で捉えられた熊本地震の余効変動について) : 小林知勝・水藤尚
- Study on local crustal deformation associated with volcanic activity by InSAR observation and simple numerical simulation (SAR 観測により検出される局所的な火山性地殻変動と簡単な数値計算による考察) : 小林知勝
- Making and Evaluation of Small GNSS Observation Equipment (小型 GNSS 観測装置の試作と評価) : 宮崎隆幸
- Linear Surface Ruptures in NW Aso Calderaby Kumamoto Earthquake and Relationship with Active Faults in Central Kyushu (熊本地震に伴い現れた阿蘇カルデラ北西部の地表断層群と九州中部の活断層の形態の類似性) : 藤原智・森下遊・中埜貴元・小林知勝・矢来博司・宇根寛・山中雅之
- Crustal Deformation of Kumamoto Earthquake – Surface Faults around Suizenji and Horizontal Displacements in Aso Valley (熊本地震に伴う地殻変動 – 水前寺付近の地表断層群と阿蘇谷での大きな水平変位-) : 藤原智・森下遊・中埜貴元・小林知勝・矢来博司
- Deposit of Pyroclastic Material Detected by InSAR images for Shinmoedake Volcano and Suwanosejima Island (干渉 SAR で見る火口周辺の火砕物の堆積 – 新燃岳、諏訪之瀬島-) : 藤原智・本田昌樹 (測地部)・上芝晴香 (測地部)・矢来博司
- Cumulativeness of “triggered” surface rupture in north-western area of outer rim of Aso caldera and its impact for active fault evaluation (トレンチ掘削による阿蘇外輪山北西部の「お付き合い地震断層」の累積性の確認と活断層評価におけるその意義) : 宇根寛・中埜貴元・佐藤浩 (日本大)・八木浩司 (山形大)
- Innovation of Spatial Representation Technology to Support Disaster Responses (災害対応を支える空間表現の新技术 (その2)) : 宇根寛
- Conveying the power and potential of survey and map - Outreach activities of Geospatial Information Authority of Japan- (測量・地図の「力」と「可能性」を伝える ~国土地理院のアウトリーチに向けた取組み~) : 宇根寛
- More maps in the classroom! - Activities of Geospatial Information Authority of Japan to support geoscience education- (教室で地図を使おう ~国土地理院の地理・地学教育支援~) : 宇根寛
- The Estimation of the Deformation Sources beneath Meakandake and Oakandake Volcanoes in Hokkaido Using Finite Element Method (雌阿寒岳及び雄阿寒岳の変動源の推定 – 有限要素法を用いた解析の試行-) : 佐藤雄大 (文部科学省)・小林知勝
- Improvement of method that makes Japanese old and dense gravity data consistent with Japan gravity standardization net 2016 (過去の稠密重力データの日本重力基準網 2016 への整合手法の高度化) : 宮崎隆幸
- Crustal deformation around the Kirishima Voicano Group detected by GNSS and SAR observation (GNSS および SAR で捉えた霧島山周辺の最近の地殻変動) : 矢来博司・森下遊・小林知勝・藤原智・川元智司 (測地観測センター)・瀬川秀樹 (測地観測センター)

- GGOS Working Group of Japan during the First Five Years (日本の GGOS ワーキンググループの 5 年間の活動) : 宮原伐折羅・大坪俊通 (一橋大学)
- ◇COMET Annual Meeting (COMET 年次会合) 平成 30 年 7 月 2~4 日 YHA Cheshunt (イギリス・チェスハント)
- Nationwide Deformation Monitoring in Japan by ALOS-2 InSAR and Future Plan (ALOS-2 干渉 SAR による日本全国変動監視と今後の計画) : 森下遊
- ◇ IGARSS2018 (地球科学及びリモートセンシングに関する国際シンポジウム) 平成 30 年 7 月 23~27 日 Feria Valencia Convention & Exhibition Centre (スペイン・バレンシア)
- COSEISMIC SURFACE DEFORMATIONS OF GLOBAL LARGE EARTHQUAKES IN 2014-2016 DETECTED BY ALOS-2 INSAR (ALOS-2 干渉 SAR によって検出された 2014-2016 年の世界中の大地震に伴う地震時地表変動) : 森下遊
- ◇Geomorphometry2018 (国際数値地形解析学会 2018) 平成 30 年 8 月 13~17 日 Millennium Harvest Hotel (アメリカ・コロラド州ボルダー)
- Classification of topography in artificially modified alluvial plains using DEMs (人工改変が進んだ沖積平野の DEM を用いた地形分類) : 岩橋純子・中埜貴元 (国土地理院)・山崎大 (東京大学/JAMSTEC)
- ◇日本地図学会平成 30 年度定期大会 平成 30 年 8 月 26~29 日 富山大学 (富山県富山市)
- 災害対応を支える空間表現の新技术—日本地図学会防災委員会の設置によせて— : 宇根寛
- 空中写真と SfM-MVS 技術による山間地の積雪深マッピングの検討 : 中埜貴元・大野裕幸
- ◇日本測量調査技術協会 技術委員会 GIS 部会 講演会 平成 30 年 8 月 29 日 富山大学 (富山県富山市)
- 災害リスクの把握に向けた空間計測技術でとらえる地形とその変化 : 中埜貴元
- ◇平成 30 年度スペシャリストの会東北支部 (第 1 回) 講演会 平成 30 年 8 月 30 日 宮城県建設産業会館 (宮城県仙台市)
- 「測位基盤検討部会」の報告—準天頂衛星システムが実現する高精度測位社会を支える— : 宮原伐折羅
- ◇GGHS2018 (重力・ジオイド・標高体系の国際シンポジウム 2018) 平成 30 年 9 月 17~21 日 王立コペンハーゲン図書館 (デンマーク・コペンハーゲン)
- The current status and future plans of the height reference system in Japan (日本の標高体系の現状と将来の計画) : 松尾功二・矢萩智裕 (測地部)・平岡喜文 (測地部)・Rene Forsberg (デンマーク工科大学)・Arne Olsen (デンマーク工科大学)
- Interannual crustal load deformation by non-tidal oceanic mass variations around Japan (日本周辺の非潮汐起源の海洋質量変動に伴う年々周期の地殻荷重変位) : 松尾功二・Rene Forsberg (デンマーク工科大学)
- ◇日本地理学会 2018 年秋季学術大会 平成 30 年 9 月 22~24 日 和歌山大学 (和歌山県和歌山市)
- 国土地理院の情報を生かした地理教育レシピ案 : 宇根寛・岡谷隆基 (企画部)
- 湛水量推定に DEM の違いが及ぼす影響 : 中埜貴元・岩橋純子・大野裕幸
- ◇日本火山学会 2018 年度秋季大会 平成 30 年 9 月 26~30 日 秋田大学 手形キャンパス (秋田県秋田市)
- 霧島山 2017~2018 年噴火に伴う地殻変動 : 藤原智・矢来博司・小林知勝・森下遊・小沢慎三郎
- 草津白根山の最近の地殻変動 : 矢来博司・藤原智・森下遊・小林知勝・宗包浩志 (測地部)
- ◇日本地震学会 2018 年度秋季大会 平成 30 年 10 月 9~11 日 ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)
- ALOS-2 干渉 SAR による大阪府北部の地震に伴って発生した有馬-高槻断層帯に沿う地表変位の検出 : 藤原智・森下遊・矢来博司・中埜貴元・宇根寛・林京之介 (測地部)
- 2011 年東北地方太平洋沖地震の粘性緩和による変動と粘弾性不均質構造の検討 : 水藤尚

- ・房総半島で2009年11月頃に発生した小規模スロースリップイベント：矢来博司
- ・GEONETに基づく2018年6月房総半島SSEの滑り分布モデル：小沢慎三郎・矢来博司
- ◇日本地震学会2018年度秋季大会（2018年9月6日北海道胆振地方中東部の地震に関する緊急セッション）平成30年10月9～11日 ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）
 - ・ALOS-2のSAR干渉画像で見る北海道胆振東部地震で現れた地盤変動：藤原智・中埜貴元・森下遊・小林知勝・矢来博司・宇根寛・林京之介（測地部）
 - ・平成30年北海道胆振東部地震に伴う地殻変動：測地部・測地観測センター・地理地殻活動研究センター（発表者：矢来博司）
- ◇日本測地学会第130回講演会 平成30年10月16～18日 高知県立県民文化ホール（高知県高知市）
 - ・ALOS-2干渉SARによる大阪府北部の地震に伴って発生した有馬-高槻断層帯に沿う地表変位の検出：藤原智・森下遊・矢来博司・中埜貴元・宇根寛・林京之介（測地部）
 - ・霧島山2017～2018年噴火に伴う地殻変動：藤原智・矢来博司・小林知勝・森下遊・小沢慎三郎
 - ・房総半島で2009年11月頃に発生した小規模スロースリップイベント：矢来博司
 - ・2011年茨城県沖の地震の粘性緩和による変動：水藤尚
 - ・「地球規模の測地基準座標系（GGRF）」の強化にむけた国連の活動：宮原伐折羅
 - ・迅速・高精度なGNSS定常解析システムの構築に関する研究：中川弘之
 - ・次期測地基準座標系の構築に向けた地殻変動モデルの検討：小門研亮・宮原伐折羅
- ◇平成30年度 第1回DRMセミナー 平成30年10月22日 日本デジタル道路地図協会（東京都千代田区）
 - ・衛星測位時代の位置の基準のあり方 ―準天頂衛星システムが実現する高精度測位社会を支える―：宮原伐折羅
- ◇物理探査学会第139回学術講演会 平成30年10月23日 富山国際会議場（富山県富山市）
 - ・SAR衛星による火山の地殻変動観測の現在と今後の展望：小林知勝
- ◇天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）地震調査専門部会第12回合同部会 平成30年10月24～26日 熊本市国際交流会館（熊本県熊本市）
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (1) - Foreshocks - (2016年熊本地震の地殻変動(1) ―前震―)：小林知勝・川元智司（測地観測センター）・檜山洋平（国土交通本省）
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (2) - Mainshock - (2016年熊本地震の地殻変動(2) ―本震―)：矢来博司・小林知勝・森下遊・藤原智
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (3) - Small displacement linear surface ruptures detected by ALOS-2 SAR - (2016年熊本地震の地殻変動(3) ―だいち2号SARによる小変位の地表断層群の抽出―)：藤原智・森下遊・中埜貴元・小林知勝・矢来博司・宇根寛・山中雅之（国土交通大学校）
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (4) - Geomorphological and geological settings of triggered surface ruptures - (2016年熊本地震の地殻変動(4) ―誘発された地表断層の地形・地質的背景―)：中埜貴元・宇根寛・佐藤浩（日本大学）・藤原智
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (5) - Postseismic deformation (GNSS and InSAR observations) - (2016年熊本地震の地殻変動(5) ―余効変動（GNSS及びInSAR観測）―)：小林知勝
 - ・Crustal deformation of the 2016 Kumamoto earthquake sequence (6) - Postseismic deformation (viscoelastic model) - (2016年熊本地震の地殻変動(6) ―余効変動（粘弾性モデル）―)：水藤尚
 - ・Time dependent block fault modeling of Japan（時間依存のブロック断層モデリング）：小沢慎三郎・矢来博司

- ◇天然資源の開発利用に関する日米会議 (UJNR)地震調査専門部会第 12 回合同部会 (北海道胆振地震緊急セッション) 平成 30 年 10 月 24~25 日 熊本市国際交流会館 (熊本県熊本市)
 - Local surface deformation of 2018 Hokkaido Eastern Iburi earthquake detected by ALOS-2 SAR (ALOS-2 で捉えられた平成 30 年北海道胆振東部地震の局所的な地表変位): 藤原智・中埜貴元・森下遊・小林知勝・矢来博司・宇根寛・林京之介 (測地部)
 - Crustal deformation and fault model of the 2018 Hokkaido Eastern Iburi earthquake (平成 30 年北海道胆振東部地震に伴う地殻変動と震源断層モデル): 測地部・測地観測センター・地理地殻活動研究センター (発表者: 小林知勝)
- ◇平成 30 年度国土交通省国土技術研究会 平成 30 年 11 月 1~2 日 国土交通省中央合同庁舎 2 号館・3 号館 (東京都千代田区)
 - 「だいち 2 号」の干渉 SAR で見る地震の地殻活動: 山田晋也
- ◇The 13th SEGJ International Symposium (第 13 回物理探査学会国際シンポジウム) 平成 30 年 11 月 12~14 日 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)
 - Gravity measurement and vertical reference frame (重力測定と高さ基準座標系): 宮原伐折羅
 - InSAR-detected local ground deformation in potential areas of phreatic eruption: Way forward to proactive monitoring for disaster risk mitigation (InSAR で検出される水蒸気噴火発生場の局所地盤変動: 災害リスク軽減のためのプロアクティブな監視に向けて): 小林知勝
- ◇日本地形学連合秋季大会 2018 年秋季大会 平成 30 年 11 月 23~24 日 国立研究開発法人防災科学技術研究所 (茨城県つくば市)
 - 沖積平野の浸水脆弱性・地盤脆弱性を反映した DEM 地形分類の可能性について: 岩橋純子・中埜貴元・山崎大 (東京大学)
- ◇日本活断層学会 2018 年度秋季学術大会 平成 30 年 11 月 23~25 日 とりぎん文化会館 (鳥取県鳥取市)
 - 阿蘇外輪山北西部・的石牧場 I 断層の活動履歴: 宇根寛・中埜貴元・佐藤浩 (日本大学)・八木浩司 (山形大学)・小村慶太郎 (電力中央研究所)
 - 2018 年大阪府北部の地震に伴って有馬一高槻断層帯で観測された地表変位: 宇根寛・藤原智・中埜貴元・林京之介 (測地部)・森下遊・矢来博司
 - SAR 干渉画像に基づき阿蘇外輪山で確認した新たな地表地震断層: 中埜貴元・宇根寛・藤原智・遠藤涼・出戸雅敏 (応用地理部)・佐藤浩 (日本大学)
- ◇2018 AGU Fall Meeting (アメリカ地球物理学連合 2018 年秋季大会) 平成 30 年 12 月 10~14 日 ウォルター・E・ワシントン・コンベンションセンター (アメリカ・ワシントン D.C.)
 - InSAR-detected local ground deformations in areas of potential phreatic eruptions: towards proactive monitoring for disaster risk mitigation (水蒸気噴火の発生可能性領域において InSAR で捉えられた局所的な地殻変動: 災害リスク軽減のためのモニタリングに向けて): 矢来博司・小林知勝・山田晋也
 - Development of rapid and accurate GNSS routine analysis system of GEONET data by PPP-AR (PPP-AR 法による GEONET データの迅速・高精度な GNSS 定常解析システムの開発): 中川弘之
 - Geomorphological and geological characteristics of incidental displacement fault associated with 2016 Kumamoto Earthquake sequence around the northwest of the outer rim of the Aso caldera, southwestern Japan (2016 年熊本地震に伴う阿蘇カルデラ北西部での付随的変位断層の地形・地質的特徴): 中埜貴元・宇根寛・佐藤浩 (日本大学)・小村慶太郎 (電力中央研究所)・八木浩司 (山形大学)

- Interannual crustal load deformation induced by non-tidal oceanic mass variations around Japan (日本周辺の非潮汐起源の海洋質量変動に伴う年々周期の地殻荷重変位) : 松尾功二・Rene Forsberg (デンマーク工科大学)
 - Development of terrain classifications as a proxy to estimate VS30 (VS30の推定に向けた地形分類の開発) : 岩橋純子・山崎大 (東京大学)・Julie Herrick (米国地質調査所)・Alan Yong (米国地質調査所)・松岡昌志 (東工大)・中埜貴元・Utkarsh Mital (カリフォルニア工科大学)・Alexandros Savvaidis (テキサス大学オースティン校)
- ◇水蒸気噴火のメカニズムと予知に関する研究集会 平成31年1月17~18日 神奈川県温泉地学研究所 (神奈川県小田原市)
- InSARで検出される水蒸気噴火発生場の局所地盤変動について : 小林知勝
- ◇SATテクノロジー・ショーケース2019 平成31年1月29日 つくば国際会議場 (茨城県つくば市)
- 熊本地震の「お付き合い断層」は断層の常識を変えるか? : 藤原智
- ◇第7回ILRS技術連絡会 平成31年3月7日 南紀くろしお商工会館 (和歌山県那智勝浦町)
- 石岡測地観測局におけるVLBI-GNSSコローケーション測量 : 宮原伐折羅・梅井迪子 (測地部)・上芝晴香 (測地部)・松本紗歩 (測地部)・若杉貴浩 (測地部)・栗原忍 (測地部)
- ◇日本学術会議学術フォーラム「平成30年夏に複合的に連続発生した自然災害と学会調査報告」 平成31年3月12日 日本学術会議講堂 (東京都港区)
- 自然の営みと人の関わりから災害を捉える地理学の取組み : 宇根寛
 - 干渉SARで見えてきた新しい地震像 : 宇根寛